



**市長の公約と
政治姿勢を問う**
こんどう 彰治(政新クラブ)



問／市長公約の全体的な進捗状況は。

答／一定の成果を上げている12項目は「実施」。部分的に実施した31項目は「一部実施又は着手済」。副市長4人制と政策諮問委員は「未着手」。

問／「子育て日本一を目指す」は達成判断が難しい。今後の進め方はどうか。

答／政策の方向性や目指す姿を示したものであり、第7次総合計画の関連施策などに必要な取り組みを織り込んだ。

問／地域独自の予算の補助率引下げを見直す考えは。自主財源3割を捻出できない団体もある。

答／制度見直しの考えはない。今後、団体意見を聞き、仕組みや運用の改善を図ることも検討。

問／副市長4人制・政策諮問委員の実現に向け、今後どのように取り組むのか。

答／今後も実現に向けた研究・検討を継続しつつ、市政運営の実績を重ね、より多くの確実な成果をあげることには注力する。

問／議会から市長答弁に対し申入れがあったが。

答／真摯に受け止め、的確な答弁を心掛ける。

市道除雪作業報償金の状況

問／市道除雪作業報償金の申請状況や問合せは。

答／12月5日時点で65団体が申請し、今後増える見込み。問合せは、「市道か私道か」や申請書の記入方法、申請期限に関するものがあつた。



**通年観光計画と
スポーツツーリズム**
江口 修一(久比岐野)



問／残り2年の任期中に具体的な施策が作れるか。

答／最終案は令和6年1月に示したいが、策定は令和6年度にずれ込む見込み。

問／13区の中山間地域や桑取地区のスポーツによる観光振興を考えているか。

答／多様な自然環境をいかし、可能性を考えていく。

うみがたりの損益分岐点

問／令和4年度決算から見えてきた損益分岐点は。

答／入館者数は40万人、収入は4億8,200万円が分岐点となる。

健全財政維持のために

問／財政の硬直化が進み、財政調整基金も減り続けている状況に不安を感じる。

答／歳出のさらなる適正化等を推進するとともに、第3次財政計画を基本に健全財政の維持に努める。



京都水族館



くわどり謙信公トレイル



京都鉄道博物館のSL体験展示



**除雪支援システムと
ワンオペ除雪の実証実験**
橋本 洋一(久比岐野)



問／ICT技術を活用した除雪支援システムの実証実験とワンオペ除雪の試行の結果はどうだったか。また、本格実施の用途はどうか。

答／令和5年度の市道除雪作業は、105業者・834人のオペレーターが担っている。熟練した技術が求められる除雪オペレーターについては、高齢化や担い手不足が課題となっていることから、令和4年度は2台の除雪ドーザでICT技術を活用した除雪支援システムの実証実験を行ったところであり、今後、ロータリ除雪車での実証実験を重ね、適用機種や配置路線等を検討していく。

また、運転手一人で除雪を行うワンオペ除雪についても、令和4年度に実施した交通量の少ない中山間地域での試行実施の結果を踏まえ、沿道の状況や交通量などを考慮し安全性の確保に留意しながら、実施エリアを検討していく予定である。

